

地域協議会・ユニバーサル農園に関する 講演・トークセッション ～はじめに～

- 農福連携の推進に係る調査研究・政策提言(農水省・厚労省)
- 都道府県(事業所)への研修



農福連携に地域で取組む～地域協議会～

<主なきっかけ>

農業の担い手が
いない

高工賃を得たい

新たな働き口
を得たい

耕作放棄地を
解消したい

特性にあった
仕事がしたい

地域の社会課題
を解決したい

地場産業を
活性化したい

地域の連携を
強化したい

農福連携に取り組む主体数が増加する一方で
地域によって農福連携の課題が異なる。



農福連携の取組が選択肢の1つとして地域に
浸透するように、

農地域単位で設立される組織(=地域協議会)
が主体となって、地域の実情を踏まえた仕組み
づくりに取り組む。

農福連携の取組を点から面へ！

地域協議会の体制イメージ

都道府県振興局、市町村、農業・福祉関係者、教育機関等が参画

地域協議会で想定される取組

- ・農業と福祉のネットワークづくり（交流会、体験会等）
- ・地域内の農福連携のルールづくり（作業単価の設定等）
- ・マッチングや農業実習の受入れ
- ・事業者間で共同した販路開拓 等

障害者等が農業を体験できる場～ユニバーサル農園～

ユニバーサル農園とは

子どもから高齢者までの世代や障害の有無を超えた多様な者を対象として、農業体験活動を通じた交流・参画、健康増進、生きがいづくり、職業訓練、立ち直りなど、多様な社会的課題の解決につながる場。

※「農福連携等推進ビジョン(2024改訂版)」より

ユニバーサル農園が目指すもの

対象者

- 障害者
- 生活困窮者、ひきこもりの状態にある者、犯罪をした者
- 子どもから高齢者まで



取組例

- 市民農園をユニバーサル農園として利用※
※市民農園のより多様な者の利用を促すため、地域の高齢者や障害者が優先的に利用できる区画を設けることが可能
- 農業、福祉、教育等の様々な関係者が連携して、就労支援、健康づくり、介護予防、メンタルケア等を実施
- 高齢者が農作業等を通じて、運動機能低下、閉じこもり等の予防を図るなど、地域で交流し生き生きと活動できる場づくりを提供
- 生活困窮者に対して、農業等を知る機会を提供するとともに、農業法人等で就労等に向けた就労訓練を実施
- 障害者の生涯にわたる学びの場として、農業体験等を実施

多様な社会的課題の解決

登壇者紹介

地域協議会



安芸市農福連携研究会（高知県安芸市）

公文 一也 氏

安芸市の自殺対策から発展した農福連携の先進的な地域協議会の立役者



ノウフクコンソーシアム東日本

会長 森下 博紀 氏

農福連携実践者であり、東日本の農福連携の発展に向けて設立した
コンソーシアムの会長

ユニバーサル農園



社会福祉法人ゆうゆう（北海道当別町）

理事長 大原 裕介 氏

地域共生の実現に向け町の基幹産業である農業に着目。
ユニバーサル農園も実施。

トークセッションのテーマ(案)

- はじめの一歩は？ ⇒ 地域協議会・ユニバーサル農園のきっかけは？
- 地域協議会・ユニバーサル農園において、大切にしているポリシーは？
- 参加者へのメッセージ(今後取り組みたいと思っている方へ)

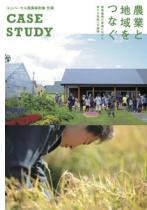
參考資料

【ご参考】弊社における農福連携の取り組み実績

- 農福連携の推進に係る調査研究・政策提言(農水省・厚労省)
- 都道府県(事業所)への研修

<研究事業(農福連携)>

【R6:農福】



【R4・5:農福】

報告書

調査研究・研究支援		事例	他
2024	農水省	農福連携の推進に向けた新たな取組への展開	10
2023	農水省	農山漁村振興交付金事業「農福連携の現状と課題の情報共有」	25
2022	農水省	農山漁村振興交付金事業「農福連携の現状と課題の情報共有」	10
2021	農水省	農山漁村振興交付金事業「農福連携における作業分担等のHow to動画制作及び高収益品目の農福連携の実態に関する調査・分析」	7
2020	厚労省	委託事業「障害者就労における林業・水産業等と福祉との連携推進式」	30
			15

【R3:農福】



【R2:林・水福】



<研修>

行政		研修	ad
2024	長崎県	B型:テーマ研修(農福連携)	30
		(小計)	505
2023	熊本県	B型:テーマ研修(農福連携)	30
2023	熊本県(北部)	B型:テーマ研修(農福連携)	30
2023	長崎県	B型:テーマ研修(農福連携)	30

農福連携等推進ビジョン(2024改訂版)に基づく施策の推進方向について

- 「農福連携等推進ビジョン(2024改訂版)」(令和6年6月5日農福連携等推進会議決定)に基づき、「地域で広げる」「未来に広げる」「絆を広げる」を新たなスローガンに、「農福連携等を通じた地域共生社会の実現」を目指して、法務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省が連携した施策を推進。



詳しく述べる

農福連携等推進ビジョン(2024改訂版)の概要

- 地域協議会や伴走型コーディネーターの活動を通じて、地域単位の推進体制づくりを後押し
- 生産施設等の整備やスマート農業技術等の活用
- 地域での多様な連携やノウフク商品のブランド化
- 現場で農業と福祉をつなぐ専門人材の育成
- 農業の担い手や農業高校の生徒等への普及
- 特別支援学校の実技・実習要望に対する農業者による協力・支援
- ノウフクの日(11月29日)等による企業・消費者も巻き込んだ国民的運動の展開
- 社会的に支援が必要な人たちの農業での就労
- 世代や障害の有無を超えた多様な者の交流・参画の場としてのユニバーサル農園の拡大
- 林福・水福連携の推進

地域で広げる
未来に広げる

絆を広げる

農福連携等を通じた地域共生社会の実現

KPI

2030年度までに、4省庁が連携して、農福連携等の取組主体数を12,000件以上、地域協議会に参加する市町村数を200以上とする

● 地域協議会の体制イメージ

都道府県振興局、市町村、農業・福祉関係者、教育機関等が参画



恵庭市農福連携ネットワーク(北海道)

● 地域協議会で想定される取組

- ・農業と福祉のネットワークづくり
(交流会、体験会等)
- ・地域内の農福連携のルールづくり
(作業単価の設定等)
- ・マッチングや農業実習の受入れ
- ・事業者間で共同した販路開拓 等



大隅半島ノウフクコンソーシアム
(鹿児島県)

● ユニバーサル農園とは

世代や障害の有無を超えた多様な者の交流・参画、健康増進、生きがいづくり、職業訓練、立ち直りなど、農業体験活動を通じて多様な社会的課題の解決につながる場



NPO法人事と風の舎
こえどファーム(埼玉県)

ユニバーサル農園について

- 「ユニバーサル農園」は、子どもから高齢者までの世代や障害の有無を超えた多様な者を対象として、農業体験活動を通じた交流・参画、健康増進、生きがいづくり、職業訓練、立ち直りなど、多様な社会的課題の解決につながる場。

※「農福連携等推進ビジョン(2024改訂版)」より

ユニバーサル農園が目指すもの

対象者

- 障害者
- 生活困窮者、ひきこもりの状態にある者、犯罪をした者
- 子どもから高齢者まで



取組例

- 市民農園をユニバーサル農園として利用※
※市民農園のより多様な者の利用を促すため、地域の高齢者や障害者が優先的に利用できる区画を設けることが可能
- 農業、福祉、教育等の様々な関係者が連携して、就労支援、健康づくり、介護予防、メンタルケア等を実施
- 高齢者が農作業等を通じて、運動機能低下、閉じこもり等の予防を図るなど、地域で交流し生き生きと活動できる場づくりを提供
- 生活困窮者に対して、農業等を知る機会を提供するとともに、農業法人等で就労等に向けた就労訓練を実施
- 障害者の生涯にわたる学びの場として、農業体験等を実施

多様な社会的課題の解決

- 障害者等の雇用・就労に向けた機会の提供又は高齢者の生きがいの創出等を目的に実施する場合には、農山漁村振興交付金において、生産施設、休憩所、トイレ等の整備等への支援が可能

取組事例

杉並区農福連携農園「すぎのこ農園」（東京都杉並区）

- 令和3年に開設。区画の一部が地域の障害者施設や保育園等の団体向けに貸し出され、障害者等の生きがい創出や健康増進、自然体験などに活用
- 農園内には、車いすも通れる広い通路やレイズドベッド※を設けるなど、バリアフリーにも配慮 ※高床式の花壇
- 地域の障害者施設等と連携したマルシェの定期開催等により、障害者施設の利用者が社会参画する機会を創出



障害者による収穫体験の様子

NPO法人たかつき（大阪府高槻市）

- 平成19年に、デイサービスセンターを開所。隣接する農地を活用して、高齢者の健康維持や生きがいづくりを目的に園芸療法として農作業を実施
- レイズドベッドを活用し、利用者個人の区画を導入することで、利用者が主体的に農作業に取り組むことができ、身体機能の低下予防に貢献
- 地域の小学生向けの農作業体験を実施し、利用者と子どもたちとの交流を促すことで生きがいづくりに寄与



レイズドベッドを活用し農作業を実施



2023

ノウフク
アワード
NOUFUKU AWARD
2023